

# ごあいさつ



平素はJAひがしみの事業運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、わが国の経済は、新型コロナウイルス感染防止対策による行動制限の影響が現在も続いており、経済活動は停滞気味となり、過去のリーマンショックを上回る厳しい環境下にあるものと思われれます。

農業を取り巻く環境につきましては、農業従事者の高齢化や担い手・後継者不足等による農業従事者の減少、耕作放棄地の増加等も進み、依然として厳しい環境におかれております。新型コロナウイルスの影響は、農畜産物の販売にも影響が出ているところであり、国内農畜産物の消費促進並びに国内農業や食料安全保障の重要性について国民的理解を求める機会ともなっております。

JAをめぐる情勢は、政府がすすめる農協改革におけるJAの自己改革の集中推進期間が終わり、その実施状況を調査・検討した後に、将来のJAの方向性について、令和3年3月までに結論を得るとしてあります。これに対してJAグループでは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合として、助け合い精神のもとに、持続可能な農業と豊かでくらしやすい地域社会を実現したい」という原点に立ち返り、農業者の所得増大や地域の活性化への貢献をすることで、JAとしての存在意義の発揮を目指しております。

このような状況のもと、当JAでは、新たに策定した第7次中期計画の初年度として、「農業者の所得増大と農業生産の拡大」「組織基盤の確立と地域の活性化」「総合事業機能発揮のための経営基盤強化」を対処すべき重要な課題と認識し、計画の実践と課題に取り組んでまいりました。その結果、一定の成果も収めることができましたが、引き続き取り組まなければならない課題も山積しております。

今後も組合員・利用者の皆さまとの繋がり強化をさらに進め、法令等遵守体制を徹底し、地域の皆さまに信頼され、必要とされるJAを目標に、全役職員が一丸となり全力で取り組んでまいります。

ここに「2020年度版ディスクロージャー誌」を発行させていただきますので、ご一読いただきJAひがしみのへのご理解をさらに深めていただき、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年7月

東美濃農業協同組合

代表理事組合長 細江 成徳